あの日のあの川 リレー日記　～第 78 話～

あの日のあの川 リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです．リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます．

第 78 話主人公　藤井悠羽

（筑波大学大学院　システム情報学研究科　構造エネルギー工学専攻　白川（直）研究室『川と人』ゼミ）
（■川ガール・□川系男子）
（出身地を流れる川：神奈川県早淵川）

「新鮮な川との関わり方」

いつのこと？：　大学生
どこの川？：　依田川

佐々木さんからバトンを受け取りました。筑波大学白川研究室「川と人」ゼミの藤井悠羽です。

最近のお話にはなってしまいますが、私は、ゼミの方々と訪れた「信州爆水 RUN」のお話をさせていただきたいと思います。なぜ私がこの経験を紹介させていただこうかと思ったか、、それは私にとって今までに無い、川との関わり方だったからです。爆水 RUN は、「川の中を 8km 走る」という、云わばマラソン大会のようなものでした。

幼少期、川辺でキャンプをしたり、遊んだり、という記憶はありましたし、元々川と人ゼミに入ろうと思った原点も、幼いころから自然に触れる機会が多かったことだと思います。しかし、私にとって、川の中を走る、という発想は全くありませんでした。

そして、参加を決めた後も私は、川の中を走ることがいかに大変かを甘く見積もっている部分がありました。ところが実際に走ってみると、石の上はコケで滑りますし、段差も多いですし、おまけに川の流れに対して走る時の抵抗の大きさは私の体力を大きく削るものでした。(ちなみに、一度コース内で流されそうになった時、周りの方が助けてくださいました、ありがたい限りです、、)ただ、大変だった一方、参加者の皆さんの楽しみ方はそれぞれで、ご夫婦で参加されている方、うきわをもって参加されている方(ゼミの先輩も持って行かれていました)、家族で参加されている方など様々な方がいらっしゃり、新しい川への関わり方を知るとともに、多くの楽しみ方を学ぶことができました。

私がこの大会で最も楽しかった瞬間は、レース後に川に行って、ぷかぷかと浮いて遊んでいた時です。走り切った達成感と冷たい川の水が本当に気持ちよかったです。次も機会があれば是非参加したいと思っています。

今回のリレー日記では、爆睡 RUN を取り上げましたが、私は川と人ゼミに入ったことで、自身が思っていたよりもずっと多くの「川の顔」を知ることができています。それは、先輩方や同期(これからは後輩の方も)、そして先生が様々な研究やお話をしてくださるからです。自然と関わる子供心と常に学ぶ気持ちを忘れずに、これからももっと多くの知識、経験を得られるよう、頑張ります。そして、私の研究を聞いて、誰かに新しい川の側面を知ってもらえることを祈ります。

（次は伊藤さんにバトンを託します）